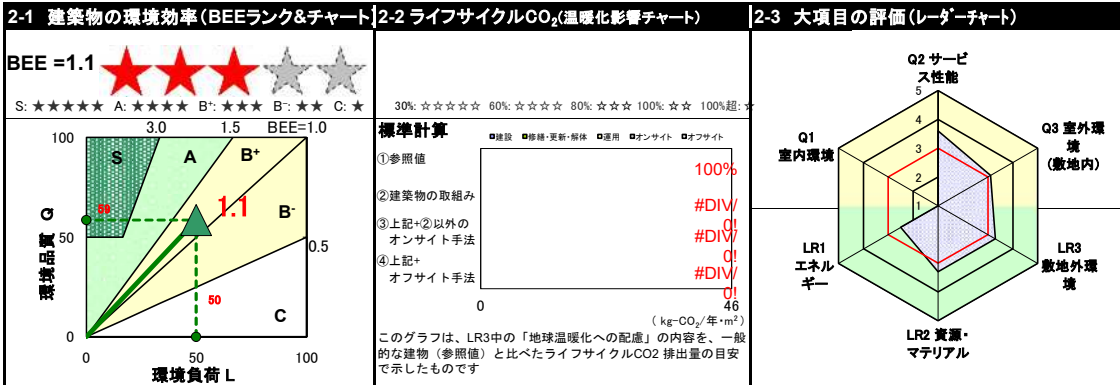
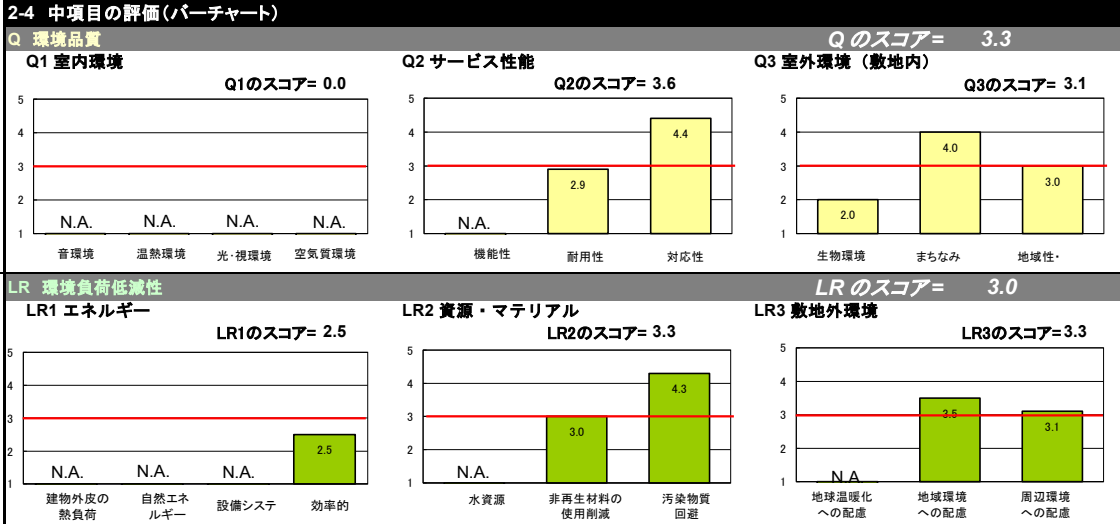


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)福岡運輸一宮冷凍倉庫Ⅱ期	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県一宮市丹陽町重吉字東堂寺401番1ほか7筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法22条区域	平均居住人員	50 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2028年12月 予定	評価の実施日	2026年9月17日
敷地面積	15,763 m ²	作成者	津田 基貴
建築面積	2,278 m ²	確認日	2026年9月18日
延床面積	8,276 m ²	確認者	堀川 純一



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
N. A	2.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.4	1.0

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

外構緑化指数 79.9 %

建物緑化指数 0.0 %

外装材に使用した地域性のある材料

なし

建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材

なし

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)福岡運輸一宮冷凍倉庫Ⅱ期

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		重点項目				評価点		評価点		重み係数		評価点	
Q 建築物の環境品質												3.3	
Q1 室内環境												-	
1 音環境												-	
1.1 室内騒音レベル						3.0		-		-		-	
1.2 遮音						-		-		-		-	
1 開口部遮音性能						-		-		-		-	
2 界壁遮音性能						-		-		3.0		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-		-		3.0		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-		-		3.0		-	
1.3 吸音						-		-		3.0		-	
2 温熱環境						-		-		-		-	
2.1 室温制御						-		-		-		-	
1 室温						3.0		-		-		3.0	
2 外皮性能						3.0		-		-		3.0	
3 ゾーン別制御性						3.0		-		-		-	
2.2 湿度制御						3.0		-		-		3.0	
2.3 空調方式						3.0		-		-		3.0	
3 光・視環境						-		-		-		-	
3.1 昼光利用						-		-		-		-	
1 昼光率						3.0		-		-		3.0	
2 方位別開口						-		-		-		-	
3 昼光利用設備						3.0		-		-		3.0	
3.2 グレア対策						-		-		-		-	
1 昼光制御						5.0		-		-		3.0	
3.3 照度						3.0		-		-		3.0	
3.4 照明制御						3.0		-		-		3.0	
4 空気質環境						-		-		-		-	
4.1 発生源対策						-		-		-		-	
1 化学汚染物質						3.0		-		-		3.0	
4.2 換気						-		-		-		-	
1 換気量						3.0		-		-		3.0	
2 自然換気性能						3.0		-		-		3.0	
3 取り入れ外気への配慮						3.0		-		-		3.0	
4.3 運用管理						-		-		-		-	
1 CO ₂ の監視						3.0		-		-		-	
2 喫煙の制御						3.0		-		-		-	
Q2 サービス性能						-		-		0.43		-	
1 機能性						-		-		-		-	
1.1 機能性・使いやすさ						-		-		-		-	
1 広さ・収納性						3.0		-		-		3.0	
2 高度情報通信設備対応						3.0		-		-		3.0	
3 バリアフリー計画		独自				3.0		-		-		-	
1.2 心理性・快適性						-		-		-		-	
1 広さ感・景観 (天井高)						3.0		-		-		3.0	
2 リフレッシュスペース						3.0		-		-		-	
3 内装計画						3.0		-		-		-	
1.3 維持管理						-		-		-		-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0		-		-		-	
2 維持管理用機能の確保						-		-		-		-	
2 耐用性・信頼性						0.5		2.9		0.52		-	
2.1 耐震・免震・制震・制振						0.4		3.0		0.48		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0		3.0		0.80		-	
2 免震・制震・制振性能						3.0		3.0		0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						0.3		2.9		0.33		-	
1 躯体材料の耐用年数		②				-		3.0		0.23		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②				-		2.0		0.23		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		②				-		3.0		0.09		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		②				-		3.0		0.08		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		②				-		4.0		0.15		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		②				-		3.0		0.23		-	
2.4 信頼性						0.1		3.0		0.19		-	
1 空調・換気設備		②				3.0		3.0		0.25		-	
2 給排水・衛生設備		②				3.0		-		-		-	
3 電気設備		②				3.0		3.0		0.25		-	
4 機械・配管支持方法		②				3.0		4.0		0.25		-	
5 通信・情報設備		②				3.0		2.0		0.25		-	

3 対応性・更新性					0.4	4.4	0.48					4.4
3.1 空間のゆとり			②		0.3	5.0	0.31	-	-	-		
1 階高のゆとり		階高が7.55m		-	5.0	0.60						
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率=0.089		3.0	5.0	0.40						
3.2 荷重のゆとり				冷凍庫と冷蔵庫の床荷重をそれぞれ12400N/㎡、8930N/㎡とした	3.0	5.0	0.31		3.0	-		
3.3 設備の更新性					0.3	3.4	0.38					
1 空調配管の更新性				-	3.0	0.17						
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17						
3 電気配線の更新性		ケーブルラックの使用、二重天井内はケーブルころがし		3.0	5.0	0.11						
4 通信配線の更新性		ケーブルラックの使用、二重天井内はケーブルころがし		3.0	5.0	0.11						
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22						
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22							
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57		-	-	-	3.1	
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	2.0	0.30		-	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	主要県道側に緑地を設け、メッシュフェンスとすることで開放性を高めた								4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30		-	-	-	3.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	3.0	0.50			-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50			-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性					-			-	-	-	3.0	
LR1 エネルギー					-	0.40		-	-	-	2.5	
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-		-	-	-	-	
2 自然エネルギー利用				3.0	-	-		-	-	-	-	
3 設備システムの高効率化				3.0	-	-		-	-	-	-	
4 効率的運用				1.0	2.5	1.00		-	-	-	2.5	
		集合住宅以外の評価		1.0	2.5	1.00		-	-	-		
4.1		モニタリング		3.0	3.0	0.50		-	-	-		
4.2		運用管理体制		3.0	2.0	0.50		-	-	-		
		集合住宅の評価		-	-	-		-	-	-		
4.1		モニタリング		-	3.0	-		-	-	-		
4.2		運用管理体制		-	3.0	-		-	-	-		
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	-	-	3.3	
1 水資源保護				-	-	-		-	-	-	-	
1.1 節水				3.0	-	-		-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				-	-	-		-	-	-		
1		雨水利用システム導入の有無		3.0	-	-		-	-	-		
2		雑排水等利用システム導入の有無		3.0	-	-		-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				0.7	3.0	0.74		-	-	-	3.0	
2.1		材料使用量の削減	② 独自	-	4.0	0.07		-	-	-		
2.2		既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.24		-	-	-		
2.3		躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	5.0	0.20		-	-	-		
2.4		躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	1.0	0.20		-	-	-		
2.5		持続可能な森林から産出された木材		3.0	2.0	0.05		-	-	-		
2.6		部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	3.0	0.24		-	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	4.3	0.26		-	-	-	4.3	
3.1		有害物質を含まない材料の使用		3.0	4.0	0.32		-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.5	0.68		-	-	-		
1		消火剤		-	-	-		-	-	-		
2		発泡剤(断熱材等)		-	5.0	0.50		-	-	-		
3		冷媒		3.0	4.0	0.50		-	-	-		
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	-	-	3.3	
1 地球温暖化への配慮			①	-	-	-		-	-	-	-	
2 地域環境への配慮				0.5	3.5	0.50		-	-	-	3.5	
2.1		大気汚染防止		-	5.0	0.25		-	-	-		
2.2		温熱環境悪化の改善		-	3.0	0.50		-	-	-		
2.3		地域インフラへの負荷抑制		0.2	3.0	0.25		-	-	-		
1		雨水排水負荷低減	独自	-	4.0	0.25		-	-	-		
2		汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	-	-		
3		交通負荷抑制	独自	-	4.0	0.25		-	-	-		
4		廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25		-	-	-		
3 周辺環境への配慮				0.5	3.1	0.50		-	-	-	3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	-		
1		騒音	独自	-	3.0	0.33		-	-	-		
2		振動	独自	-	3.0	0.33		-	-	-		
3		悪臭		-	3.0	0.33		-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-	-		
1		風害の抑制		-	3.0	0.70		-	-	-		
2		砂塵の抑制		-	3.0	-		-	-	-		
3		日照阻害の抑制		-	3.0	0.30		-	-	-		
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20		-	-	-		
1		屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		-	4.0	0.70		-	-	-		
2		屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30		-	-	-		

重点項目スコアシート

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

【仮称】福岡運輸一宮冷凍倉庫Ⅱ期

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策					N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00		
② 資源の有効活用					
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22		
Q2-3	対応性・更新性	4.4	0.21		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.22		
③ 敷地内の緑化					
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化：79.9%/建物緑化：0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)福岡運輸一宮冷凍倉庫Ⅱ期

計画上の配慮事項	
総合	既存棟のコンセプト「周辺環境と調和した冷凍冷蔵倉庫」を継承し、地域環境と調和しつつ定温物流インフラとしての機能を高める増築計画とした。既存棟と同一の外装材とカラーリングを採用し、建物全体の一体感と連続性を確保した。西から東へ建物高さを段階的に配置することにより、西側道路からの視覚的圧迫感を低減している。設備計画では冷凍機等を視認性の低い東側へ配置し、フェンスで囲って外構景観への影響を最小化している。
Q1 室内環境	工場用途のため対象外。
Q2 サービス性能	階高を3.9m以上、壁長さ比率を0.1以下とし、倉庫の自由度と空間のゆとりを確保した。
Q3 室外環境(敷地内)	主要県道側に緑地を設け、メッシュフェンスとすることで開放性を高める配慮をした。
LR1 エネルギー	冷凍冷蔵倉庫の空調のみ機器の稼働時間・電力量の月報確認、デマンド制御を可能にした。
LR2 資源・マテリアル	フロン・ハロンの回避として、吹付け硬質ウレタンフォームA種1H、自然冷媒を採用した。
LR3 敷地外環境	周辺や上方への漏れ光の少ない照明機器を採用し、取付位置に配慮した。LED照明を採用した。
その他	特になし。